

【福岡市】
1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

令和3年1月に中央教育審議会から出された「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」では、これからの「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実のために、ICTの活用は必要不可欠であると述べられており、各学校に整備したICT環境をどのように有効活用していくかが重要となっている。

本市においては、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、教育の質を向上させていくため、学校において必要なICT環境のさらなる充実に取り組むとともに、教育データ連携基盤を構築し、教育データの活用に取り組んでいく。

2. GIGA第1期の総括

(1) 端末・ネットワーク等の環境整備

- ・ 児童生徒の1人1台タブレット端末の整備
- ・ 校内ネットワーク環境の増強
- ・ ICT支援員の配置 各学校月2回訪問
- ・ デジタルドリル及び授業支援アプリの導入
- ・ 学習者用デジタル教科書の導入（国の事業に加え、市費により全校2教科整備）

(2) 学びの実践のための取り組み

- ・ 1人1台端末の導入時に、全校の管理職とICT推進リーダーを対象に対面研修を実施、その内容を各学校にて展開。
- ・ 感染症拡大期や不登校児童生徒への対応として、オンライン授業を積極的に実施。
- ・ ICT活用推進モデル校やリーディングDXスクールの好事例を全校に展開。
- ・ ICT活用に関するアンケートを全教員に実施。活用事例を全校に展開するとともに、学校ごとの課題を把握し、指導主事等による学校訪問や授業視察等の伴走型支援を実施。
- ・ ICT活用に関するサポートサイトを作成し、好事例の指導案や授業動画、学習アプリの操作方法などの情報を一元化。
- ・ 情報活用能力育成のため、全市の児童生徒を対象としたコンテスト（タイピング・プレゼンテーション）を企画・実施。

(3) 成果と課題

【文部科学省「教育DXに係る当面のKPI」の達成状況】

項 目	K P I	福岡市 (R6全国学調)	全国 (R6全国学調)	文科省が定める 目標値 (目標年度)
1人1台端末 の 積極的活用	毎年度ICT研修を受講する教員の率	小：93.2% 中：97.1%	小：95.1% 中：90.8%	100% (R6)
	情報通信技術支援員（ICT支援員）の配置	5.2校/人	5.7/人(R3)	4校/人(R7)
	1人1台端末を週3回以上活用する学校の率	小：91.1% 中：91.4%	小：93.2% 中：90.8%	小：100% (R6) 中：100% (R6)
	デジタル教科書を実践的に活用している学校の率	-	-	100% (R10)
個別最適・ 協働的な学び の充実	児童生徒が自分で調べる場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小：61.6% 中：68.6%	小：76.6% 中：70.4%	小：100% (R6) 中：100% (R6)
	児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小：37.0% 中：45.7%	小：55.1% 中：51.9%	小：80% (R8) 中：80% (R8)
	教職員と児童生徒がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小：39.1% 中：61.5%	小：59.7% 中：57.4%	小：80% (R8) 中：80% (R8)
	児童生徒同士がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小：26.0% 中：45.0%	小：38.6% 中：41.1%	小：80% (R8) 中：80% (R8)
	児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において1人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小：56.9% 中：65.8%	小：52.8% 中：42.2%	小：80% (R8) 中：80% (R8)

【成果】

- ・「1人1台端末の積極的活用」に関しては、全国平均と同様に高い状況にある。特に中学校においては、教員の研修受講率が高く、後述する「個別最適・協働的な学びの充実」につながっていると考えられる。
- ・「個別最適・協働的な学びの充実」に関しては、中学校において「教職員と児童生徒」や「児童生徒同士」のやり取り場面で積極的に活用されている。
- ・小中学校ともに「自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面での端末活用」が高い状況にあり、個別最適な学びに対して有効に端末が活用されている。

【課題】

- ・「個別最適・協働的な学びの充実」に関して、小学校では全国平均より下回っている項目が多い。児童が考えをまとめて発表する場面や、児童同士がやり取りを行うような協働的な学びの推進や、そのような場面でのICT活用法について、事例を横展開していく必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

本市においては、1人1台端末活用とクラウド環境を前提とした「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」の実現に向けて、子どもたちが課題を解決するために学習過程や学習形態、何を使って学ぶかなどを自己選択・自己決定していく学びを推進する。また、GIGA第1期での取り組みを一層深化させるとともに、以下の取り組みを通じて、国の示す目標の達成をめざす。

(1) 各種調査結果における成果と課題の共有

各種調査（「全国学力学習状況調査」や「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」等）の結果及び成果と課題を学校と共有することにより、課題解決に向けた共通認識を図る。

(2) ヒアリング等による学校の課題把握及び個別支援

各種調査分析や学校へのヒアリングをもとに、学校ごとの課題を把握し、指導主事等による学校訪問や授業視察等の伴走型支援を実施する。

(3) 教職員研修の一層の充実

集合、双方向オンライン、動画配信等を組み合わせた教職員研修の一層の充実を図るとともに、全国教員研修プラットフォームを活用し、学び続ける教職員の育成をめざす。

教師と子供の学びは「相似形」であることを認識し、子供の可能性を最大化する伴走者として、教師も1人1台端末を活用した研修形態を推進していく。

(4) 先進事例の積極的導入

文部科学省リーディングDXスクール事業に参加して好事例を横展開するとともに、先進的な授業を行っている学校の事例を全市で共有する。

(5) 授業実践事例の横展開

個別最適・協働的な学びを行っている実践事例等を収集、データベース化し、ウェブサイトに掲載することで、事例の横展開を行い、教職員の授業改善を一層推進する。

(6) 教育データの効果的な利活用

「データ連携基盤（ダッシュボード）の創出」といった国の示した方向性を踏まえ、授業支援ソフトやデジタルドリルで生成された学習系データ、児童生徒の出欠及び成績情報等の校務支援システムに蓄積された校務系データなど、教育データを収集・分析・可視化するインターフェース（教育ダッシュボード）の構築に取り組んでいく。